

アクティバルブⅡ
脳脊髄液リザーバ

医療従事者向け

シラスコン[®] アクティバルブⅡ



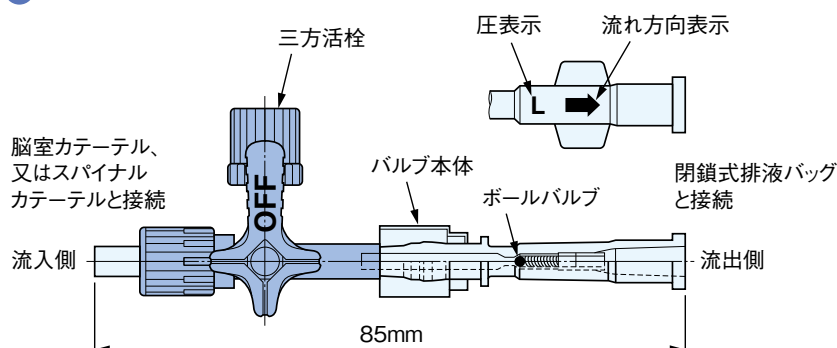
アクティブバルブⅡ

患者の体位を拘束することなく持続髄液ドレナージができる閉鎖式システムです。

特 長

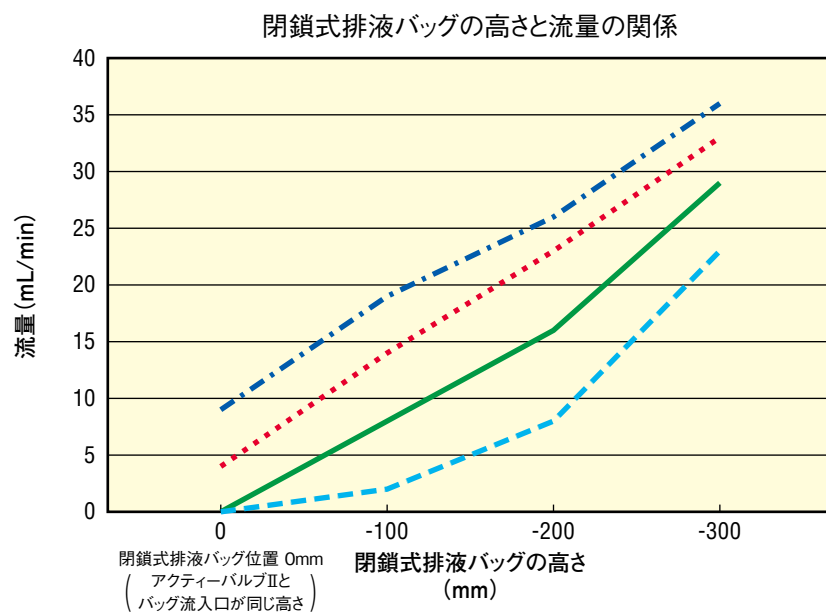
- 患者の体位を拘束することなく、持続髄液ドレナージが行えます。
- ストラップ等を用いて、閉鎖式排液バッグを前胸部に設置することで、座位、立位でも持続髄液ドレナージが行えます。
- 感染の危険性が少ない閉鎖式システムです。
- 検査時に患者の移動が簡便に行えます。
- 患者の脳圧に応じて4段階のバルブ圧を選択できます。

製品仕様

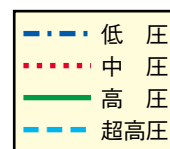


ボールバルブの代表特性

バルブ圧	圧表示	開放圧 (mm H ₂ O)
低 圧	L	45～90
中 圧	M	95～140
高 圧	H	145～190
超高圧	HH	195～240



脳室ドレナージ766-5N (内径2.0mm)
を用いアクティブバルブⅡに150mmH₂O
を加圧した状態で測定



使用方法

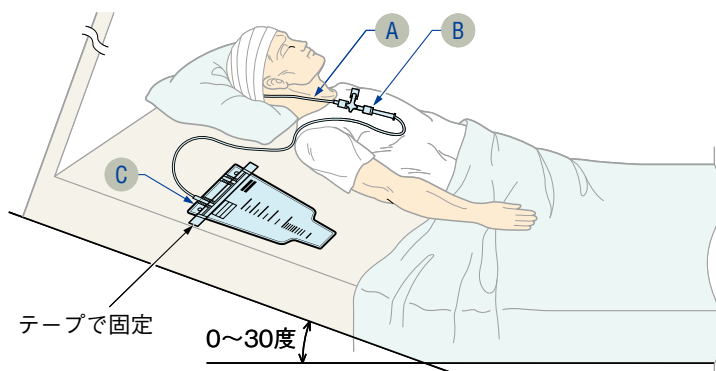
1. アクティブバルブⅡの流れ方向表示を確認し、三方活栓がバルブ本体の流入側に接続してあることを確認してください。
2. 三方活栓に市販のシリンジを接続し、生理食塩液を注入してバルブ内のエア抜きを行うと共に、バルブが通水することを確認してください。
3. アクティブバルブⅡの流入側コネクタを脳室カテーテル、又はスパイナルカテーテルに流出側コネクタを閉鎖式排液バッグに接続してください。
4. 本品を患者の前胸部に固定してください。

使用方法に関する使用上の注意

1. アクティブバルブⅡのバルブ圧には、低圧、中圧、高圧、及び超高圧の4タイプがあります。患者の脳圧に応じて、適切なタイプを選択してください。
2. 本品はシラスコン®閉鎖式排液バッグとの組合わせでご使用ください。
3. 背臥位で使用する場合は閉鎖式排液バッグをベッドの上の枕元に置いてテープで固定するか、又は枕元の布団にピン等で固定してください。(使用参考例参照) 座位、立位で使用する場合は、ストラップ等を用いて、閉鎖式排液バッグの位置を前胸部に設置してください。
4. 本品は脳脊髄ドレナージ用体外簡易バルブです。閉鎖式排液バッグの固定位置により排液量が変化しますので、使用中は患者の容態に十分ご注意ください。特に使用開始初期は1～2時間毎にドレナージ量、血圧、意識状態を確認してください。
5. 背臥位から座位、もしくは座位から立位等に体位を変更した時は、ドレナージ量が急激に増加する場合がありますのでご注意ください。特に長時間にわたる座位、立位のときは、オーバードレナージに十分注意し、必要に応じ三方活栓をoffにしてドレナージ量を管理してください。
6. 低髄液圧が疑われる場合にはCT等で硬膜下血腫の有無を確認してください。

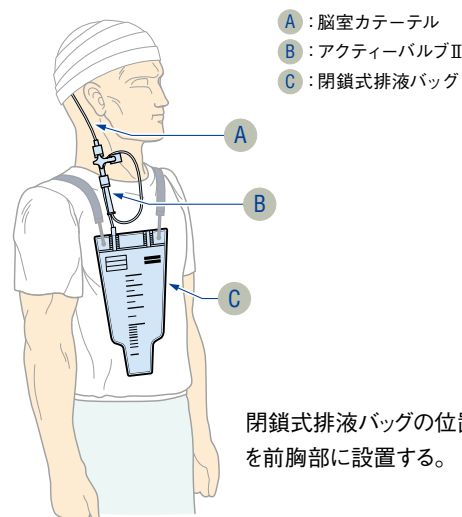
使用参考例

1) 背臥位



閉鎖式排液バッグの位置はベッド上の枕元にテープで固定するか、又は枕元のふとんにピン止める。

2) 座位・立位



閉鎖式排液バッグの位置を前胸部に設置する。

管理参考例

ドレナージ形態	バルブの位置及び設置方法	管理方法		
		バッグの位置及び設置方法	ドレナージ量/日	確認ポイント及び確認頻度
脳室ドレナージ	前胸部にピンで固定する。	背臥位時 ベッド上の枕元に置いてテープで固定する。 枕元のふとんにピン止める。	200mL	初期は1～2時間毎にドレナージ量、血圧、意識状態を確認する。 背臥位時は病態に応じてベッドの角度を0～30度に調整する。
スパイナルドレナージ	前胸部にピンで固定する。	ベッド上の枕元に置いてテープで固定する。 枕元のふとんにピン止める。	150～200mL	8時間で80mL以上流れた場合は4時間ドレナージを一時的に閉鎖する。 1日に200mL流れた時点でドレナージを一時的に閉鎖する。 8時間で40mL以下の場合もしくは1日に100mL以下の場合バルブ圧を変更する。 頭痛、嘔気、嘔吐が生じた場合は、体位を背臥位にするかドレナージを一時的に閉鎖する。
オンマヤリザーバー	頭部	ベッドサイド	200～300mL	初期は2時間毎にドレナージ量を確認する。 背臥位時は病態に応じてベッドの角度を0～30度に調整する。
脳室ドレナージ	頭部(耳の横)	ベッド上の適切な位置	150～200mL	座位、立位では外耳孔の高さと閉鎖式排液バッグの入口部の高さが15cm以内になるように設置する。 オーバードレナージが懸念された場合は、三方活栓をクランプする。

注) 上記の管理方法は参考例です。医療経験に照らし合わせ、個々の病態に応じて管理してください。

使用上の注意

1. 必ず添付文書をご覧の上、ご使用ください。
2. 本品は脳神経外科手術に熟練した医師のみが使用してください。
3. MRI撮影を行う時は、三方活栓を必ず閉じてください。本品に金属部分を使用しているためMRI撮影中にボールバルブが動くことがあります。
4. 本品とカテーテル及び閉鎖式排液バッグを接続する時は、鉗子等の器具を使用しないでください。
5. 本品を分解、修理しないでください。
6. 万一、包装が破損又は汚損している場合は使用しないでください。
7. 本品はディスポーザブル製品です。再使用しないでください。

要 覧

アクティーバルブⅡ及びシラスコン®閉鎖式排液バッグはそれぞれ滅菌包装されています。

製品名	概 要	包装単位	カタログ 番号	JANコード	医療機器承認番号
アクティーバルブⅡ	中 圧	2個/箱	778-1N	4540778104785	21100BZZ00161000
	高 圧		778-2N	4540778104792	
	低 圧		778-3N	4540778104808	
	超高压		778-4N	4540778114647	
シラスコン® 閉鎖式排液バッグ	閉鎖式排液バッグ1枚 容量500mL オスルアーロック付	10枚/箱	781-1N	4547319600058	09B1X00004000111 (製造販売届出番号)
	閉鎖式排液バッグ1枚 容量500mL オスルアーロック付、クランプ付		781-2N		

※シラスコン®閉鎖式排液バッグの製造販売元はフォルテグロウメディカル(株)です。

※「シラスコン」「アクティーバルブ」は(株)カネカの登録商標です。

文 献

- 工藤 忠：一方弁入りエクステンションチューブを使用した持続脳脊髄ドレナージシステム
脳神経外科、12(10)：1161-1164、1984.
- 中山 禎司、金子 満雄、田中 敬生：高齢者正常圧水頭症の診断と治療
— One-way valve tubeを用いたSpinal drainage法 — Geriatric Neurosurgery Vol. 6：97-100、1994.
- 深澤 誠司、中山 則之、清水 言行：アクティーバルブⅡを用いた閉鎖式簡易脳脊髄液ドレナージ法
脳神経外科速報Vol.10 No.8 617-620、2000
- 久保 重喜、中田 博幸、宮庄 浩二、吉峰 俊樹：超高齢者破裂脳動脈瘤の1手術例：
One-way ball valve を利用した脳槽ドレナージの工夫 脳神経外科、28(10)：899-903、2000

製造販売元

株式会社 **カネカ**

〒530-8288 大阪市北区中之島2-3-18
TEL.06-6226-5256

販売元

株式会社 **カネカメディックス**

<http://www.kaneka-med.jp/>

東京事業所 〒107-6028 東京都港区赤坂1-12-32(アーク森ビル)

TEL.050-3181-4100

大阪事業所 〒530-8288 大阪市北区中之島2-3-18(中之島フェスティバルタワー) TEL.050-3181-4060